

五日市の耕作放棄地で水耕栽培

建築の木下グループ 農業事業化システム構築へ

建築工事業の④木下組などの持ち株会社KKGホールディングス（佐伯区五日市町石内5998-1、資本金1000万円、田中敏彦社長）は、グループの木下エネルギーパークで、耕作放棄地や休耕地などを活用した水耕栽培事業「キノシタベジタブル」（仮称）に乗り出す。第1号で、佐伯区五日市町石内地区にある農地1260平方メートルを借り受け、ビニールハウスを設置。10月中旬からイタリア・トスカーナ特産の黒キャベツの栽培を始める。

近年、増え続ける耕作放棄地や休耕地を活用することで、人口減や農業後継者確保などの悩みを抱える農村地帯での就農を後押しするとともに、安全・安心な食材を提供する農業事業化システムの構築を構想に描く。固形培地（土）を使わず、肥料を含む溶液で野菜を栽培する水耕栽培は、農業投資が不要なビニールハウスでの計画栽培で安定的な収穫量や品質を確保できる。農業収入の安定化につながり、里山の復活や若年層、U・イターンの就農を促すなどの相乗的な効果にも期待している。

キノシタベジタブルの黒キャベツは、結球しないちりめん状でビタミンやカロチン、カルシウム、鉄分を豊富に含み、抗酸化力が高いという。提携予定の農業総合研究所（和歌山市）が全国55カ所に配する直営果菜荷場（県内は大崎上馬、二原、世羅）を通じて、都心のスーパーや外食産業などへ販路拡大を進める計画。黒

キャベツの収穫は年6回、売り上げは年約890万円と試算しており、農地を持つ農家にとって安定した収入を得られるビジネススキームに定着させたいとしている。

9月16日付で設立したKKGホールディングスは、木下組をはじめ、公園や信託、ビル空調機の施設点検などの木下エネルギーソリューション、山県郡北広島町の千代田工業・流通団地などでメガソーラーを管理運営する木下エネルギーパーク、環境測定の木下コンサルタント、注文木造住宅建築の至工務店を傘下に、グループ組織力を高めていく。木下組と木下エネルギー、木下コンサルタントは、各業務のISO14001認証を9月29日付で取得。